

令和5年度第1回北海道多面的機能支払制度検討会 議事録（概要版）

日 時：令和5年7月6日（木）13：30～15：00

場 所：本庁塔屋共用会議室

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

議題等：1. 議事

- (1) 令和4年度多面的機能支払交付金の実績について
- (2) 令和5年度多面的機能支払交付金の実施計画について
- (3) 施策評価について
- (4) 今後のスケジュールについて

2. その他

(○ ～ 構成員、● ～ 事務局)

(1) 令和4年度多面的機能支払交付金の実績について

ア 事務局から資料1に基づき説明

イ 質疑応答 ～ 有

○ 資料8ページの右下の写真は何の活動をしているのでしょうか。

● 草刈りをしながら、鹿柵の補修をしています。

○ 下から潜ってくるのを避けるために、手当てをしているのかと思いました。

● 維持補修として網の切れ目などがいないかを確認しつつ、見回りをしています。

○ 資料3ページの面積の増減ですけども、日高及び宗谷地域は区域の見直しにより減少となったと書いておりますが、1ページを見ると、日高は活動を終了したと書いてあるので、それが理由で減ったのではないのでしょうか。区域の見直しによる理由なのでしょうか。

● 日高は完了によるものです。「完了及び区域の見直しにより、日高及び宗谷地方などで減少した。」と記載するのが正しいと思います。

(2) 令和5年度多面的機能支払交付金の実施計画について

ア 事務局から資料2に基づき説明

イ 事務局から事前質問に対する回答(1, 2)に基づき説明

ウ 質疑応答 ~ 有

○ 非農業者の参加割合は3割もあるのですか。

● 事務局が把握している数字は、活動組織のひとつの活動のうちの最大参加者数であったため、延べ人数という拾い方をすると割合が変わるかもしれません。

○ イメージですが、そんなにいないような気がしていました。
たくさん参加していただけるのは、良いことなのですが。

○ 先日、北海道新聞のネット版で、アライグマの駆除強化について、北海道は捕獲目標を設定し、自治体向けの手引きを作成し、市町村向けのアライグマ捕獲プログラムを策定するということが記事に出ていました。この北海道の取組と多面の活動はリンクしていますか。

● アライグマの説明会に参加して話す内容については、アライグマを駆除するための捕獲器などについて、多面的機能支払交付金を使うことができるということをPRしていきますので、アライグマの施策的なことに関しては、環境生活部が所管しています。

○ 連携はしていないということでしょうか。

● 連携しております。

環境生活部が主催するアライグマの研修会に、協議会から出席し、多面的機能支払交付金を活用して経費の負担が軽減できるということを説明しています。

○ その新聞記事には、一言も多面の言葉がなかったものですから。

● 制度としては活用できますが、最終的には地元がどういった活動をするかということを選択していきます。新聞には掲載されませんでしたでしたが、どんどん活用していただければと考えております。

○ 昨年末のとんぼの未来・北の里づくりで、アライグマに関する発表をしており、そこでたくさんの方が聞いていたと思いますが、反響はありましたか。

- 発表していただいた方からは、多くの農家から機材の注文の問い合わせがあり、ストックがなくなると連絡がありました。また、アライグマの捕獲器だけではなく、鹿柵用の電気牧柵などについても、多面的機能支払交付金を活用して購入されているということも聞いております。
- 前回の検討会でもお話ししましたが、事務局も変わられたということですので、再度、お願いしたいと思います。

17ページの(6)女性参画推進の取組みで事例収集する予定のようですが、是非こういうことを行ったなかで、具体的には(4)の事例発表会でも女性参画について発表していただいて、女性参画推進を図るような形で進めていただきたいと思います。
- このような意見がありましたので、是非、ご検討ください。

(3) 施策評価について

- ア 事務局から資料3に基づき説明
- イ 質疑応答 ～ 有

- 22ページの道が行う分析と本省が行う分析、この二つの間には連携はあるのでしょうか。道の分析を本省が参考にするとか。
- 道も分析し施策評価をまとめ、国へ提出するため、国も道の施策評価を踏まえ分析していくのかと思います。
- 破線の矢印がありますが、これが反映されるということでしょうか。
- そうです。
- 19ページの中にある8月上旬に行う道のアンケート調査は、同時期に行う国の第三者委員会で議論されることを横目で見ながら、調査を行うということでしょうか。
- 第三者委員会に関しては、国のアンケート調査を6月30日まで行いましたので、それを踏まえてのものになるかと思います。

道が行うアンケート調査は、国のアンケート調査の項目に道独自の項目を追加して行うこととなっておりますので、あくまで道の施策評価のためのアンケート調査です。

- 8月上旬の道の行うアンケート調査に関しては、中間評価と同じ様式で行うということでしょうか。
- 道も国にならい、中間評価で行ったアンケート調査をベースに、再度同じ意見を聞きながら、道独自のアンケートもとっていくという形になると思います。
- この施策に対して、全国と道の違いを意識して何か特徴的なことを聞きたいということでしょうか。
- アンケートの項目につきましても、国から示されているところです。それに加え道独自の項目として、例えば、融雪の排水促進のための溝きりや融雪剤の散布というところが、道独自で聞き取る項目になるかと思います。
- 一般的な施策評価というと、施策を行うことによって、多面的機能支払交付金という制度が行われた令和元年と終了する令和5年の間に、どうこの政策で変化したのかという視点が必要と思いますが、その点を国のアンケートは意識しているのでしょうか。
具体的には、KPIですとか、注目されるべき物価指標ですとか。
- 具体的な数字というよりは、実施状況の確認、どういったことを実施してきたかということを中心に聞いていたので、質問のありました令和元年から令和4年、5年に向かって、耕作放棄地が増えたとか減ったとかということも聞いたりはしていますが、まとめた時にどのような形で表すかということは確認しておりません。項目としてはそれなりに入っていることになっています。
- お願い事になるのですが、21 ページの中間評価の③事務負担軽減と書かれていますが、本当に大事なことだと思ひまして、毎年いろいろなことを考える人が市町村に押し寄せますが、それを受ける市町村の担当者は、本当に大変だと思います。お金に関することはきちりしなければいけません、是非この事務負担軽減のところを道としてしっかりと意見が言えるように取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(4) 今後のスケジュールについて

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答 ～ 有

- 第2回の開催時期は流動的ということですか。

- 時期としては 10 月から 11 月頃を予定しておりますが、昨年実施しておりました現地調査につきましては、実施を含め検討中ということです。
- 第3回検討会の開催時期が2月下旬ということだと、現役の大学の先生は多忙な時期ですので、日程調整をしっかりとお願いします。
- 承知しました。

2 その他（全体をとおして）

- 先程の説明で、組織の広域化が進んでいるという話でしたが、どのような形で進んでいるのか、現在の状況が分かれば教えてください。

- 事務のなり手がいないということと、事務の効率化がかなりのウエイトを占めております。令和4年度だと、由仁町や名寄市、鷹栖町、比布町などがまとまる形となっております。例えば由仁町だと 12 組織がそれぞれで活動していたものが1つの組織として活動することによって、その地域の交付金を他の地域でも共通化することができ、1つの組織の施設が大変なときに交付金を回すということが可能になりますので、メリットがかなりあります。小さな組織だと、交付金額が決まっていますので、大々的に壊れれば事業を活用しなければなりません、延長が長くなって施設の目地補修に時間がかかるようなものであれば、広域化した組織のほうが人も交付金も融通できるということ。事務のなり手が 12 人から 1、2人で済むといった事務の軽減もありますし、活動の幅も広がるということが多くなってきているところです。

我々も活動組織から相談を受けますが、例えば、事務処理が煩雑で活動が難しいという組織に対しては、広域化によって一つの組織にまとまることによって、事務に携わる人を減らすことができるということを周知して進めているところです。それによって、活動を続けてみようという組織もありますので、我々も地元の状況に応じて助言等しながら進めているところです。

- そういう傾向は、組織数でいえば、合併等で数が減っていくといったことがトレンドにあるのでしょうか。面積カバー率はだんだん上がっていくが組織数は減っていくということでしょうか。
- 広域化の組織数は徐々に増えてきています。令和3年度からだと 741 組織数だったのが、令和4年度は 714 組織となっておりますので、組織数は着々と減っているというイメージです。

- 活動組織の構成員のうち農業者数や非農業者数は把握しているのでしょうか。
- 構成員のうち農業者数や非農業者数、非農業者のうち一般の方やNPO法人の団体数などは把握しています。
- 事務局を土地改良区がやっているなどの特徴あるのでしょうか。
- 土地改良区、土地改良区がないところでは農協が割と多くやっています。
- そういうところは、やりやすいのでしょうか。
- もともと母体があるという意味では、やりやすいかと思います。
- そういう意味では、集落にこだわらずに合併していけるということですね。
- そういうこともあるかと思います。